

かいど ごたっばら えのきがいと あらいきた  
海戸・後田原・榎垣外・新井北遺跡

発掘調査報告書

(概報)

平成7年度 榎垣外遺跡ほか発掘調査報告書



長野県岡谷市教育委員会

# 序

平成7年度榎垣外遺跡ほか、岡谷市内遺跡の発掘調査及び試掘・確認発掘調査の報告書（概報）を刊行することになりました。

岡谷市内には190箇所を越える多くの遺跡が発見されていますが、遺跡内での土木工事においては、個人住宅建設を中心に本年も文化財保護法に基づく届け出が多数出され、これらにつきましては試掘調査などの対応を行い、記録保存をすることができました。

今年度の調査では海戸遺跡から縄文、弥生、平安時代の住居跡や小竪穴が発見され、後田原遺跡からは弥生、平安時代の住居跡が発見されました。榎垣外遺跡では掘立柱建物跡が発見され、これまでの周囲の調査資料と合わせると、長大な建物跡になることが明らかとなりました。また出土遺物では弥生時代のビーズ玉や石製管玉の発見、平安時代の銅製碗の出土があり、多くの貴重な文化財が発見されました。

埋蔵文化財は先人の残してくれた私たちの共有の遺産であり、このような文化遺産は岡谷の人々の歴史を詳らかにすることができます。毎年、多くの個人住宅などの小規模開発事業が行われております。これらの調査面積は比較的狭い調査面積ではありますが、発掘調査を継続し、資料を蓄積することにより、やがて遺跡全体の性格を把握し、岡谷市の原始・古代の生活の様子を知ることができるでしょう。

今後、この報告書が学術の向上に活用されることを願っております。

今年度の調査にあたり、土地所有者各位、工事関係者の方々のご協力にお礼申し上げます。また、発掘調査に携わっていただいた皆さんには炎暑、厳寒のなかをご苦労いただき感謝申し上げます。

平成8年3月21日

岡谷市教育委員会

教育長 齋藤 保人

# 例 言

1. 本報告書は、平成7年度榎垣外遺跡ほか岡谷市内遺跡発掘調査及び試掘・確認発掘調査の報告書（概報）である。
2. 調査は、国および県から補助金交付を受けた岡谷市教育委員会が、平成7年5月18日から平成8年3月21日にかけて実施した。整理作業は主に12月～3月に行ったが、十分な整理が終了していないため概要の掲載にとどめてある。
3. 出土遺物、記録図面、写真などの資料は全て岡谷市教育委員会が保管している。
4. 本報告書の原稿執筆は林賢が行い、全体の編集、作図は事務局で行った。

# 目 次

序

例言 目次

1. 平成7年度発掘調査及び試掘・確認発掘調査の概要	1
2. 海戸遺跡	3
3. 後田原遺跡	6
4. 榎垣外遺跡	9
5. 新井北遺跡	11
6. 遺構の発見された試掘・確認発掘調査	12

## 1. 平成7年度発掘調査及び試掘・確認発掘調査の概要

本年度、岡谷市内で周知の遺跡において農地転用、公共事業などの開発行為が計画・実施され、市教育委員会が対応をした件数は30件を越えた。試掘・確認調査は30件、さらに発掘調査に及んだものは、4件4遺跡である。

海戸遺跡は、これまでも調査が行われ、縄文時代から平安時代の複合遺跡で、国の重要文化財「顔面把手付深鉢型土器」が出土したことで知られる遺跡である。今回の調査地は遺跡の北東に位置し、遺跡の範囲を限定するうえで貴重な成果を得ることができた。

後田原遺跡は、天竜川西岸にある扇状地で、以前から大きな集落がある重要な遺跡の一つと考えられてきた。調査地は天竜川に近い扇端部に位置し、平安時代、弥生時代の住居跡が発見され、石包丁や炭化米の出土から稲作が行われていたことが推測されるなどの成果があった。またガラス製の装飾品が発見された。

榎垣外遺跡は、奈良・平安時代の大規模遺跡として知られ、これまでも多くの貴重な成果が得られている遺跡である。昭和57年、長地保育園建設に伴い発掘調査が行われ、掘立柱建物跡が発見されて以来、周辺の調査でも幾棟かの掘立柱建物跡が発見され、官衙跡の様相を強めてきた遺跡である。今回の調査では遺跡の性格をより明確にするための試掘調査を併せて行い、規則性のある配置の長大な建物跡を発見することができた。

新井北遺跡では平安時代の住居跡を発見した。緩やかな傾斜の諏訪湖西岸において、平安時代の住居跡が発見され、資料の蓄積ができたことは貴重な成果であった。

遺跡名	所在地	調査の原因	調査期間	主な遺構	遺構・遺物の時代
1 榎垣外(上片間町地籍)	長地字上片間町2543-1	駐車場建設	5.18～5.19		平安
2 榎垣外(西原地籍)	長地字西原4755-4	住宅建設	5.18～5.24		平安
3 間下丸山	山下町一丁目2734-1外	住宅建設	5.24～5.26		縄文
4 天王垣外	本町四丁目6-1	店舗建設	5.24～6.30	弥生住居跡4	弥生
5 海戸	田中町一丁目209-1	店舗建設	5.29～5.30		縄文
6 海戸	天竜町三丁目5325-6	住宅建設	5.31～6.12	平・弥・縄住4	縄・弥・平 発掘調査
7 峰の畑城址居館跡	川岸東四丁目7891-ロ外	住宅建設	6.12		中世
8 小田井	湊三丁目3260-3	住宅建設	6.26～6.27		平安
9 榎垣外(中町)	長地字中町3456-3	住宅建設	6.27		平安
10 後田原	川岸西一丁目4269	住宅建設	7.7～8.11	平住1・弥住1	弥生・平安 発掘調査
11 海戸	天竜町三丁目5298-1	住宅建設	7.10～7.11		縄文
12 堂山	川岸東四丁目14-1511-1	擁壁工事	7.12		縄文
13 外畝	山下町一丁目2687-6	店舗建設	7.13		縄文
14 東町田中	長地字町尻北3204	店舗建設	7.13～7.18		平安
15 榎垣外(山道端地籍)	長地字山道端2355-イ外	駐車場建設	7.18～8.4	平安住居跡5	平安
16 榎垣外(金山地籍)	長地字金山2934-6	駐車場建設	8.21		平安
17 上垣外	川岸中二丁目2838-2外	住宅建設	9.4～9.5		縄文
18 扇平	長地字山ノ神前5854-1	住宅建設	9.5～9.21		縄文
19 紺屋垣外	東銀座一丁目8392-3外	駐車場建設	9.5～10.19	縄文中期土器捨場	縄文
20 榎垣外(蟻塚塚地籍)	長地字蟻塚塚3683-3外	住宅建設	10.13～11.21	掘立柱建物跡3	平安 発掘調査
21 梨久保	長地4434-2	住宅建設	10.17～10.19		縄文
22 清水田	長地字清水田4295-1	住宅建設	11.14～11.27	小竪穴1	縄文
23 榎垣外(宮下)	長地字宮下1719-3	住宅建設	11.24		平安
24 滝の沢	山下町一丁目4006-3	住宅建設	12.6～12.11		縄文
25 新井北	湊五丁目251-1	住宅建設	12.21～12.28	平安住居跡1	平安 発掘調査
26 地獄沢	上ノ原262-2	擁壁工事	1.18	小竪穴1	縄文
27 榎垣外(榎海戸)	長地字榎海戸4024-1外	道路工事	1.29～2.14		縄文
28 榎垣外(町頭北)	長地字町頭北2740-3	住宅建設	2.14～2.15		平安
29 五斗畑	川岸上四丁目1682-1	住宅建設	2.15～2.16		縄文
30 榎垣畑(小田野汐上)	長地字小田野汐上3090-1	住宅建設	3.7～3.11		縄文

第1表 平成7年度試掘・確認発掘調査一覧表



第1図 試掘・確認発掘調査地点(番号は第1表の一覧表に同じ)

## 2. 海戸遺跡

発掘調査の場所	岡谷市天竜町三丁目5325-6
土地の所有者	三上 幸助氏
発掘調査の期間	平成7年5月31日～6月12日
調査の原因	住宅建設
調査面積	74.1m <sup>2</sup>
発見された遺構	縄文時代中期後葉住居跡1棟 弥生時代後期住居跡1棟 平安時代住居跡2棟
発見された遺物	縄文時代中期後葉土器5 石鏃7 石匙1 磨製石斧1 土器片・石片5箱

調査地は以前住宅が建てられていたため、全体に攪乱が深い。

**68号住居跡** 調査区のほぼ中央部で貼床の堅い面を確認するとともに、土師器甕の破片が発見された。70住の上に構築された平安時代の住居跡である。

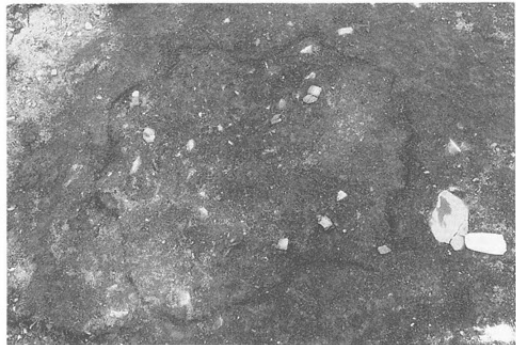
**69号住居跡** 調査区の南東隅に発見された。壁は砂礫層に5cmの掘り込みで、柱穴は1本確認されただけで、床面は顕著な堅さはない。数片の須恵器、土師器片が出土しており、平安時代の住居跡と思われる。

**70号住居跡** 68住の貼床を取り除き、黒色土を掘り進めると床面が発見された。壁の掘り込みは南側で14.3cmである。周溝は南壁に検出された。住居跡の南東側に埋甕が2基発見されたが、口縁部と胴下半部を欠く。胴部の高さ約30cm、壁際のは逆位に、内側のは正位に埋められていた。炉は住居跡の中央よりやや北側に発見され、平面長方形の石囲炉と推定されるが、炉石は抜き取られているため発見できなかった。70住は埋甕の土器から縄文時代中期後葉と思われる。

**71号住居跡** 70住の北東部分に黒色土の落ち込



第2図 調査区全景



第3図 68号住居跡床残存状態



第4図 69号住居跡



第5図 70号住居跡

みが発見され、住居跡ではないかとの推測により調査が進められた。その結果、南壁から西壁にかけて住居跡の約3分の1を調査できた。平面形は隅丸方形と思われる。壁は約25cmあり明確に確認できた。床は堅く、柱穴は3本発見できたが、深さ10cm前後で、支柱穴としては浅い。

**小竪穴48P** 径115cmの平面円形を呈する。中央部の深さは17cmと浅い。小石の多い黒色の覆土中には、復原可能な土器1点と約3分の1個体分の破片が横位の状態で出土した。

**小竪穴49P** 69住の下から発見され、黒色土の覆土中から出土した土器片は縄文時代中期の破片である。東西90cm×南北80cmの平面不整円形で深さ22cmである。

**小竪穴50P** 70住の炉と埋甕の間に発見され、長軸150cm×短軸80cm×深さ12cmの平面長方形の竪穴である。

**小竪穴51P** 調査区東側に発見され、70住と重複しているが、その部分に攪乱を受けているため住居跡との前後関係を知ることができない。大きさは東西100cm×南北150cm、深さ27cmで平面楕円形である。南隅にピットがあるが70住の柱穴と考えられる。覆土は礫を多く含む黒色土で、その中からまとまった土器片や黒耀石が出土した。

今回の調査では、海戸遺跡北側の傾斜地においても遺構が濃密に存在することが分かった。住宅の密集している市街地だけに、これは大きな成果であり、この付近一帯の再開発にあたって、今後の大きな指標を得ることができた。



第6図 炉跡と遺物出土状態



第7図 埋甕



第8図 48P 小竪穴内の遺物出土状態



第9図 48P 小竪穴出土土器



第10図 石鏃・磨製石斧



第11図 70号住居跡炉跡内の土器



第12図 埋甕



第13図 埋甕



第14図 遺構全体図 (1 : 60)



### 3. 後田原遺跡

発掘調査の場所	岡谷市川岸西一丁目4269
土地の所有者	中島 正秀氏
発掘調査の期間	平成7年7月7日～8月11日
調査の原因	住宅建設
調査面積	63.9m <sup>2</sup>
発見された遺構	弥生時代後期住居跡1棟 平安時代住居跡1棟
発見された遺物	弥生時代後期土器 高坏1 甕4 台付甕1 ビーズ玉5 管玉1 石包丁4 紡錘車1 平安時代灰釉陶器皿1 土師器 坏1 甕1 土器片・石片5箱

今回の調査地は、後田沢によって作られた後田沢扇状地の最扇端部に位置している。

**13号住居跡** 13住は台地の末端、おそらく最南端の住居であったと思われる。本住居跡は南隅を一部残してほぼ全体を知ることができた。平面形は隅丸方形の住居跡で、床は全体に非常に堅く、部分的に貼床状に二重になっている。支柱と考えられる5本の柱穴は平面形が楕円形であり、建て替えか、板材の柱であったとも考えられる。

炉は東西対称の位置で長軸上に2個所に検出された。焼土から管玉1点、炉体土器の中からビーズ玉1点、周辺の土からビーズ玉4点が発見された。ビーズ玉の大きさは幅2.5～5.8mm、厚さ1.7～4.3mm、穴の径1.0～2.4mmである。

出土した遺物は、住居床面から赤色に塗られた台付甕1点が横倒しで出土した。北壁際に沿って2個体の甕の胴部の下半分が出土し、そのそばから石包丁が出土した。石包丁はいずれも大きさが同一で、耕作土中から出土した1点は全面に整形の擦痕が残る。ほかの3点のうち2点が両面から穿孔された孔が1個所に見られる。もう1点は大



第15図 13・14号住居跡遺物出土状態



第16図 13号住居跡 北より



第17図 台付甕出土状態



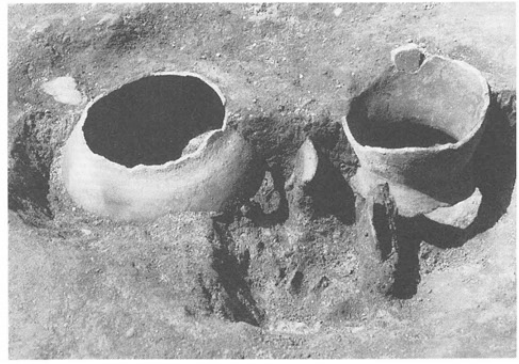
第18図 甕出土状態

きさはほぼほかの物と同一であるが、刃部および全体の加工痕が見られず、片面から穿孔が試みられたものの、途中でやめたままになっており、石包丁の未成品と考えられる。

**14号住居跡** 13住の東隅を調査の際、石組みのカマドが発見されて確認された住居跡である。カマドとその両側のコーナーが発見されただけであるため、規模など明確にできない。

カマドは北壁のほぼ中央に作られ、構築材を取り除くとカマドの両袖は板状の石を立てて組み込み、中央に支脚石が残る。柱穴は北西隅に径35cm、深さ18cmのP<sub>1</sub>と、北東隅に径30cm、深さ16cmのP<sub>2</sub>を検出した。炭化材の間から灰釉陶器片が出土、カマドの東側床面上にも、ほぼ完形で口唇部を少し欠く灰釉陶器の皿1点が出土している。

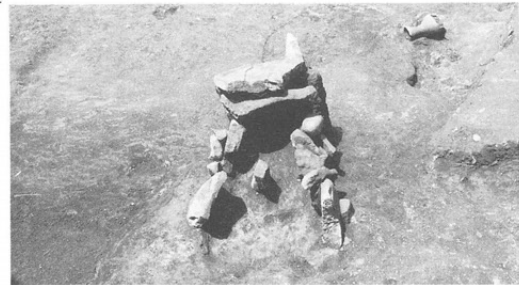
後田原遺跡では、平安期の遺構が確認されたのは今回が初めてである。また弥生時代の集落は隣の台地に長塚遺跡があり、二つの遺跡が隣接しながらも、それぞれに独立を保った集団として変遷したのか、時期的な住み分けがあったのか、経済基盤の考察とともに興味ある問題である。



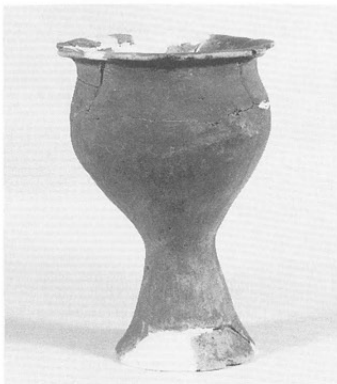
第19図 2つの甕を埋めた炉



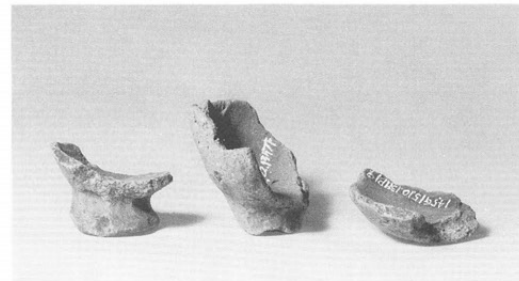
第20図 14号住居跡 カマド



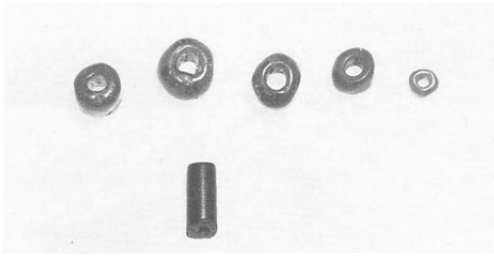
第21図 カマドの石組



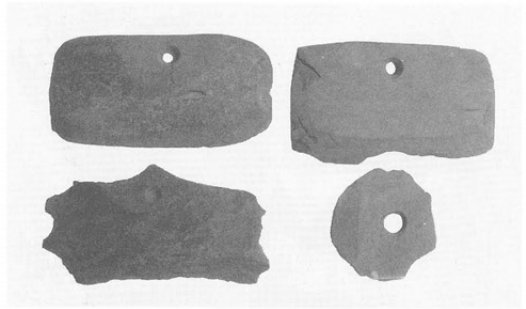
第23図 台付甕



第22図 ミニチュア土器



第24図 ビーズ玉・管玉



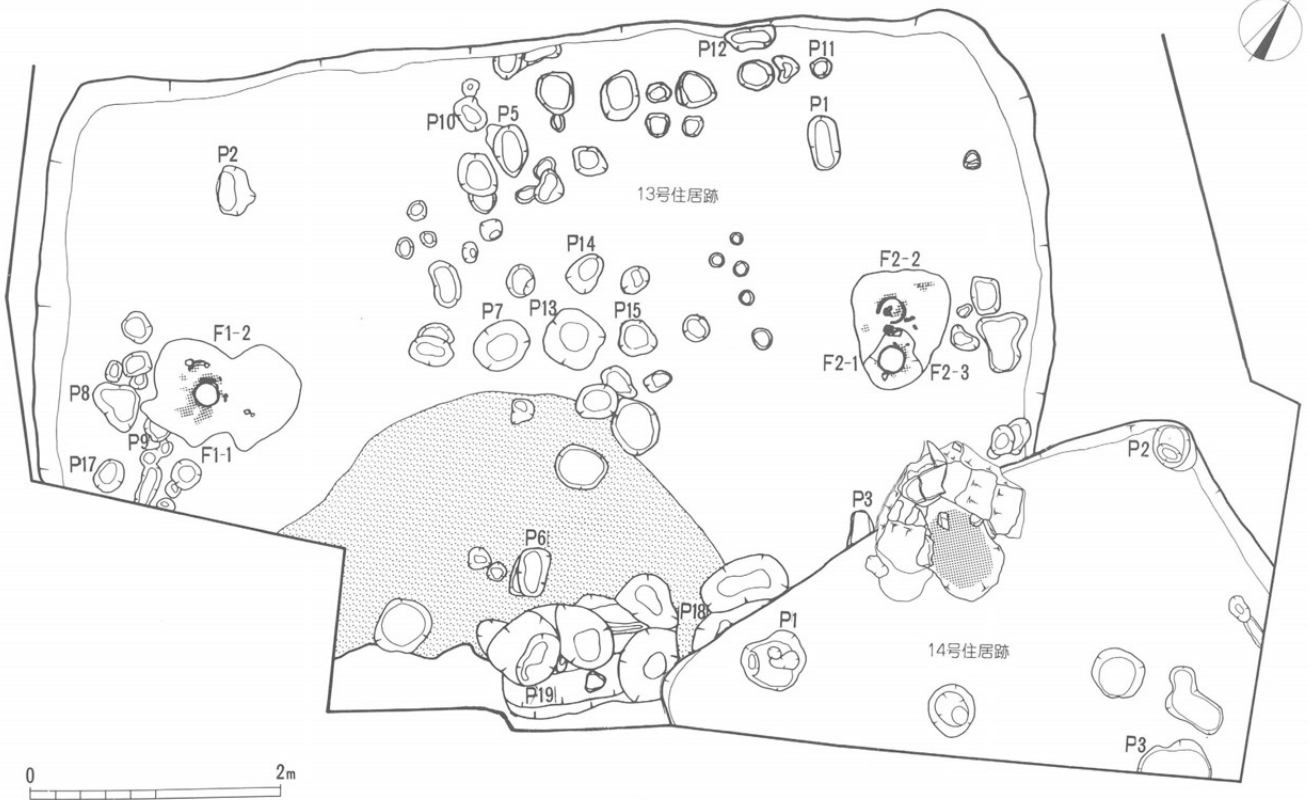
第25図 石包丁・紡錘車



第26図 石鏃・磨製石斧



第27図 灰釉陶器皿



第28図 遺構全体図 (1 : 60)

#### 4. 榎垣外遺跡蟻蛭塚地籍

発掘調査の場所 岡谷市長地字蟻蛭塚3683-3 外  
土地の所有者 中平 光廣氏、小松 崇邦氏  
発掘調査の期間 平成7年10月13日～11月21日  
調査の原因 住宅建設  
調査面積 317.3m<sup>2</sup>  
発見された遺構 掘立柱建物跡3棟

榎垣外遺跡は、これまで多くの調査が行われ、奈良・平安時代の大きな集落であることが確認されている。以前の出土遺物の中には、円面硯や刀子・バックル・八花鏡・緑釉陶器があり、これまでに発見された遺構は、住居跡のほかに掘立柱建物跡があることから官衙跡と推定されている。今回の調査地は平成2年度に調査が行われた時、掘立柱建物跡が発見され、南側の調査区外へ延びているとされた部分の調査となった。

**掘立柱建物跡** 発見された建物跡は、平成2年度に2×3間以上の建物跡として確認された遺構の続きである。前回の調査と合わせると、2×13間以上の長い建物跡となることが分かり、その規模は柱間2.8～3.0m、柱穴列の幅約4m、長さ37m以上となる。柱穴はそれぞれに重複が見られ、やや東寄りに建て替えが行われたことが明らかである。土層観察では、古い柱穴とその柱の抜き取り痕跡、新しい柱穴とその柱痕跡が明瞭に観察されている。古い柱穴には黒色土が、新しい柱穴には黒褐色土が覆土となり、切り合いは容易に観察できた。一つの柱穴は直径100～140cm、深さ60cmほどで、古い柱穴は方形に、新しい柱穴は円形に掘ろうとしていた様子がうかがえる。

出土遺物は土師器甕破片、須恵器甕破片など少量ではあるが柱穴内から出土している。



第29図 掘立柱建物跡



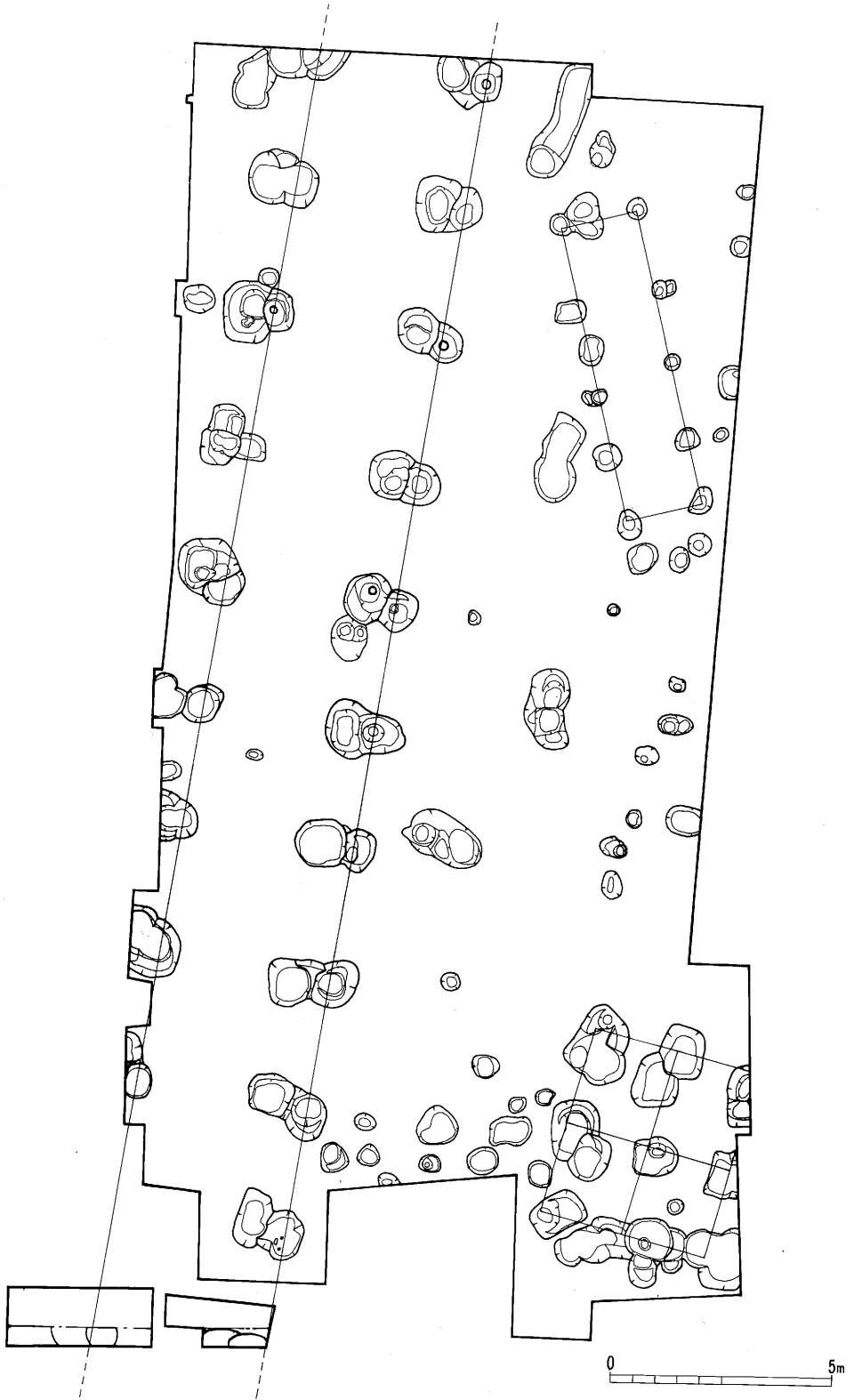
第30図 総柱建物跡検出状態



第31図 柱穴柱痕跡検出状態



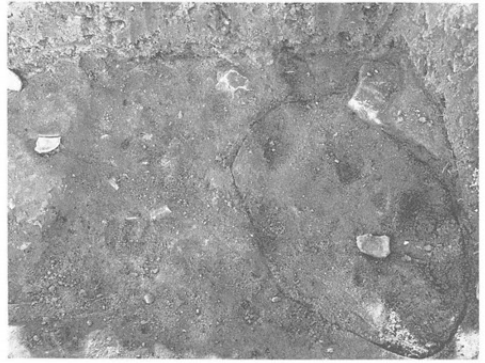
第32図 柱穴土層セクション



第33図 遺構全体図 (1 : 150)

## 5. 新井北遺跡

発掘調査の場所	岡谷市湊五丁目251-1
土地の所有者	花岡 政博氏
発掘調査の期間	平成7年12月21日～12月28日
調査の原因	住宅建設
調査面積	22.0㎡
発見された遺構	平安時代住居跡1棟
発見された遺物	土師器片・須恵器片1箱



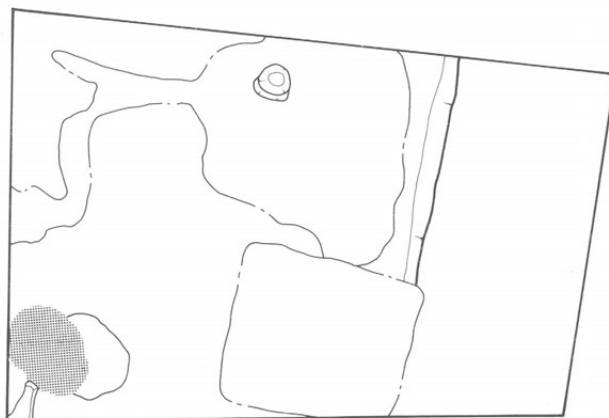
第34図 7号住居跡カマド

今回の調査区は背後の西山から諏訪湖に向かって突出する扇状地の最も端に位置する。遺跡の西側を中央自動車道が走り、その建設に伴う調査では、奈良・平安時代住居跡が6棟発見されているが、そのうち3棟が今回の調査地と近いことから、発見された住居跡もこの関連遺構群に含まれるものと思われる。

住居跡は北東に向かって傾斜した黒色土層上に貼床をして造られている。調査区のほぼ中央に設定したトレンチで遺物が多く出土し、覆土と思われる黒褐色土を掘りすすめると貼床を確認することができた。さらに北側、西側調査区を拡張したが、住居跡の壁は攪乱により確認することはできず、東壁とカマドの痕跡、部分的に残存する堅く貼られた床を検出できただけであった。

カマドは山側に作られたと推定される。遺物は土師器坏片、甕片が床面やカマド周辺から出土したが、復原可能なものはない。

参考資料 長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書 岡谷市その3 昭和51年 日本道路公団名古屋建設局 長野県教育委員会



0 2m

第35図 7号住居跡平面図 (1:60)

## 6. 遺構が発見された試掘・確認発掘調査

### 天王垣外遺跡

発掘調査の場所 岡谷市本町四丁目6-1

土地の所有者 山岡 貞敏氏

発掘調査の期間 平成7年5月24日～6月30日

調査の原因 店舗建設

調査面積 72.0m<sup>2</sup>

発見された遺構 弥生時代後期住居跡4棟

発見された遺物 弥生時代後期甕2 壺1 ビーズ玉4 管玉1 紡錘車1 石包丁2 石鏃3 土器片・石片3箱

今回の調査区は天王森の北側市道を越えた地点である。

**1号住居跡** Bトレンチの北寄りに発見された住居跡である。広い範囲に攪乱坑があるため、1住は南東の一部分が確認できたのみで全体は不明である。

**2号住居跡** 1住より南側へ1mほどの所に発見された住居跡である。南側は調査区外であること、また、建物の地下室が作られていたため攪乱が激しいことから一部の検出に終わった。

**3号住居跡** 3住は南側を4住に切られ、その全体像を知ることはできなかった。柱穴は東西方向に並ぶ4本を検出、この柱穴の縁近くからビーズ玉破片1点が出土した。周辺の残土の水洗いにより、ビーズ玉1点と破片1点が見つかり、計3点出土した。床面は堅く、平らであるが西側周辺は特に堅い。炉は4住内で見つかり、該期特有の埋甕炉である。

**4号住居跡** 3住を切って南側に広がる住居跡であるが、北壁に続く東壁の一部と西北コーナーが検出されているのみである。

柱穴はP<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>の2本見つまっている。P<sub>1</sub>の南側



第36図 3・4号住居跡



第37図 4号住居跡



第38図 壺の出土状態

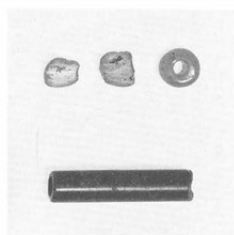


第39図 3号住居跡埋甕炉

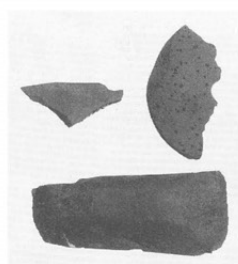
に口径15cmの土器を埋設した炉が検出された。焼土の少ない埋壺炉であり、周辺に堅い床は見られなかった。炉体土器は、小さな礫を含む褐色土層を掘りくぼめた鍋底状のピットに据えられていた。

遺物はP<sub>2</sub>の南側床面から横倒しになって、復原可能な壺形土器が出土し、またそれに隣接して管玉1点が見つかっている。

今回の調査によって、4棟もの多くの住居の存在が確認できたことは、重要な意味をもつ発見であった。



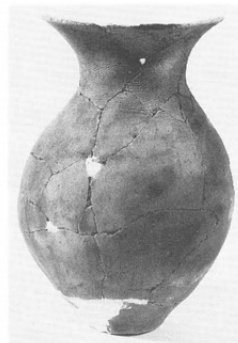
第40図 ビーズ玉・管玉



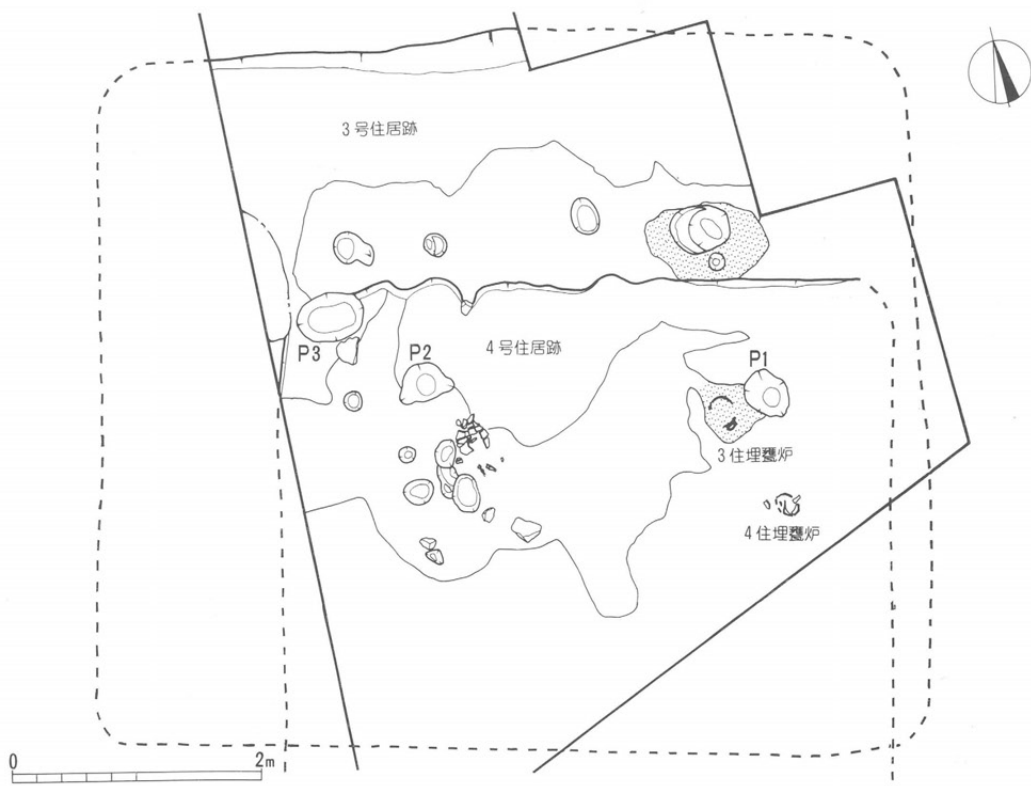
第41図 石包丁  
紡錘車



第42図 石鏃



第43図 壺形土器



第44図 3・4号住居跡 (1:60)



## 複垣外遺跡山道端地籍

発掘調査の場所 岡谷市長地字山道端2355-イ外

土地の所有者 小口 勇氏

発掘調査の期間 平成7年7月18日～8月4日

調査の原因 駐車場建設

調査面積 155.1m<sup>2</sup>

発見された遺構 平安時代住居跡5棟

発見された遺物 土師器坏18 甕1 須恵器坏1

灰釉陶器碗3 銅製品1 刀子

2 緑釉陶器片1 土器片・石

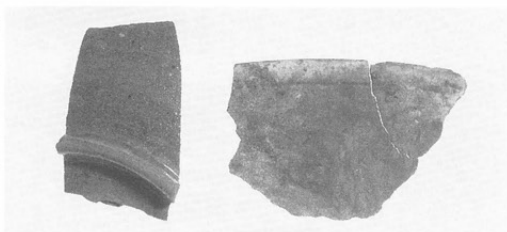
片5箱

**24・27・28号住居跡** 耕作土を掘り進めると黄色の砂礫土に暗褐色土の落ち込みが発見された。当初1棟の住居跡と思われたが、覆土を掘り進め、床面検出を行うと東側に段差が見つかり、住居の重なりがあることが分かった。また南東の壁も重複を思わせる落ち込みが発見され、3棟の住居跡が重複していることが明らかとなった。24住のカマドは北壁中央にあり、石組みは崩れ住居跡内に構築材が散乱している。覆土中の遺物は土師器破片が多く出土した。床面直上からはほぼ完形に復原できる内面黒色土器が出土したほか、刀子、銅製碗、緑釉陶器片が出土している。27住は大部分を24住に壊されており、カマドも焼土の痕跡があるだけで袖石はない。床はカマド付近から東壁寄りの南側へ特に堅い面が広がっている。28住は27住検出時に発見され、27住より古い住居跡である。しかし遺構のほとんどが調査区外へ延びているため、一部を確認するにとどまった。

**25・26号住居跡** 25・26住は耕作による攪乱のため覆土が薄く、遺物の出土量は多くない。また25住は26住を掘り込んで造っている。どちらもカマドはほとんど壊されており、わずかな焼土を検出しただけである。26住カマド左側には転石を用



第45図 24・27号住居跡



第46図 佐波利片・緑釉陶器片



第47図 土師器坏



第48図 土師器坏



第49図 土師器坏

いた石組状のものがある。

出土遺物の中で注目されるものは、24住から出土した銅製品である。本遺跡からの出土としては初めてのもので、佐波利といわれる碗ではないかと思われる。用途は仏具ともいわれるが、本遺跡の性格を官衙跡であると位置付ける上で、貴重な発見の一つとなった。



第50図 25・26号住居跡検出状態



第51図 灰釉陶器碗



第52図 24・27・28号住居跡平面図 (1 : 60)

## 紺屋垣外遺跡

発掘調査の場所	岡谷市東銀座一丁目3892-3 外
土地の所有者	宮坂 晴文氏
発掘調査の期間	平成7年9月5日～10月19日
調査の原因	駐車場建設
調査面積	104.9m <sup>2</sup>
発見された遺構	弥生時代住居跡1棟 縄文時代中期初頭遺物包含層 小竪穴12基
発見した遺物	石鏃17 石錐3 石匙1 打製 石斧43 石棒1 縄文時代中期 初頭土器30 ミニチュア土器1 石皿1 土器片・石片15箱

過去において小井川小学校の庭から土器が採集され、この一帯は紺屋垣外遺跡と呼ばれてきた。今回の調査では縄文時代中期初頭の土器片が多数見つかるとともに石器も発見された。

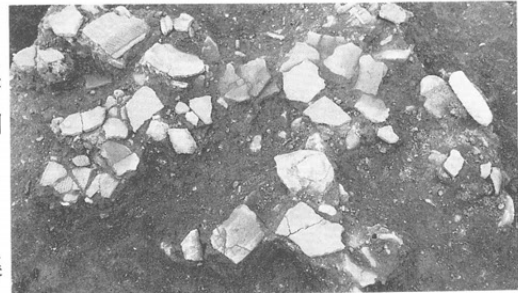
遺物が出土したのは第5層黒色土層であるが、この層は明確に細分層することはできなかった。

土器捨場のごとくに出土した土器群は、単純に中期初頭に属するものであった。完形で出土したものは一つとしてなく、破損品が折り重なって多くの礫とともに集中出土した。土層の観察から判断する限り、遺物は特別の遺構の中に遺棄されたとは考えられず、自然の状況下であり、南東に向かってわずかに傾斜するかすかな谷状のくぼ地に捨てられたものであろう。

**1号住居跡** 西北隅に検出された弥生の住居跡は、出土した弥生土器から、弥生時代後期の住居と考えられる。住居跡は黒色土層の上部に床が作られており、一部貼床されている。貼床の下からは縄文時代中期初頭の土器片が出土した。検出された柱穴は2本である。これまで、紺屋垣外一帯が弥生時代の早い時期の遺跡と考えられていたが



第53図 B トレンチ北面土層堆積状態



第54図 包含層遺物出土状態

けに、注目される発見となった。

**小竪穴** 検出された12個所の小竪穴はいずれも黒色土層を取り除いた時点で検出されたが、まとまった遺物が出土したのは1P・2Pである。

**1P** 口径70cm、深さ60cmで、断面フラスコ状を呈している。壁は暗褐色の粘土層できれいである。覆土の中層に土器1個体が頭部を西にして横たわって出土した。土器の下から骨片が検出され、坑底から石鏃1点、黒耀石原石がかたまって出土した。

**2P** 暗褐色土中に作られ、範囲は不明確であったが、石皿と多くの土器片が出土した。

#### 周辺の遺跡について

今回の試掘は、これまであまり調査の入っていない沖積平野部の市街地でもあり、今後の再開発にあたり、大きな足掛りとなった。そこで、この機会に、概略をまとめておく。

紺屋垣外を中心とする周辺の遺跡については、偶然の機会に遺物の存在を知り、遺跡として登録されたものが大部分である。平坦地であるため微地形が分かりにくく、市街地化されていることが

原因と考えられる。この付近から南の扇端部一帯は、ところどころに湧水地があり、そこから流れ下るかすかな水辺を注意して見ていく必要があるだろう。

(1)弥惣垣外遺跡 今回の調査区の西南300mに弥生町地籍があり、その周辺と考えられている。昭和5年9月、家屋新築の際土器1点が出土し、小口栄蔵氏により両角守一氏に報告され、氏によって信濃考古学会誌に報告が載せられている。その概要は岡谷市史(上巻)に詳しいので省略する。

(2)小井川小学校校庭 ここから出土した土器の大部分は庄ノ畑式土器であった。

(3)堀ノ内遺跡 昭和29年ころ、東銀座二丁目に防火貯水槽を建設した際、深さ150cmの黒色土層中から縄文時代後期の鉢形土器1点が採集された。

(4)土器免遺跡 昭和55年ころ、東銀座二丁目高木一氏宅の裏庭に地下室が造られた時、地下約150cmの黒色土中から伏甕の状態で、縄文時代後期の浅鉢形土器がほぼ完全な形で出土した。この付近一帯を土器免遺跡としているが、範囲などは明確ではない。

(5)堀ノ内一丁目13番の地籍で、高林製作所を建設の際に地下100cmの黒色土層中から、縄文時代中期の土器片の出土が報じられている。神座の小字名がある。



第55図 1P 小竪穴土器出土状態



第56図 石皿出土状態



石鏃



石錘



ミニチュア土器



炭化クルミ

(6)阿原神田遺跡 平成6年南宮一丁目ガード下一円で調査が行われた。主に庄ノ畑式に比定できる土器が多量に出土した。わずかだが縄文時代中期土器片も見られた。

以上が現在までの知り得る遺物の確認地点である。

従来、しばしば話になる横河川の氾濫と原始、古代遺跡のあり方について、今後、充分注意すべきである。



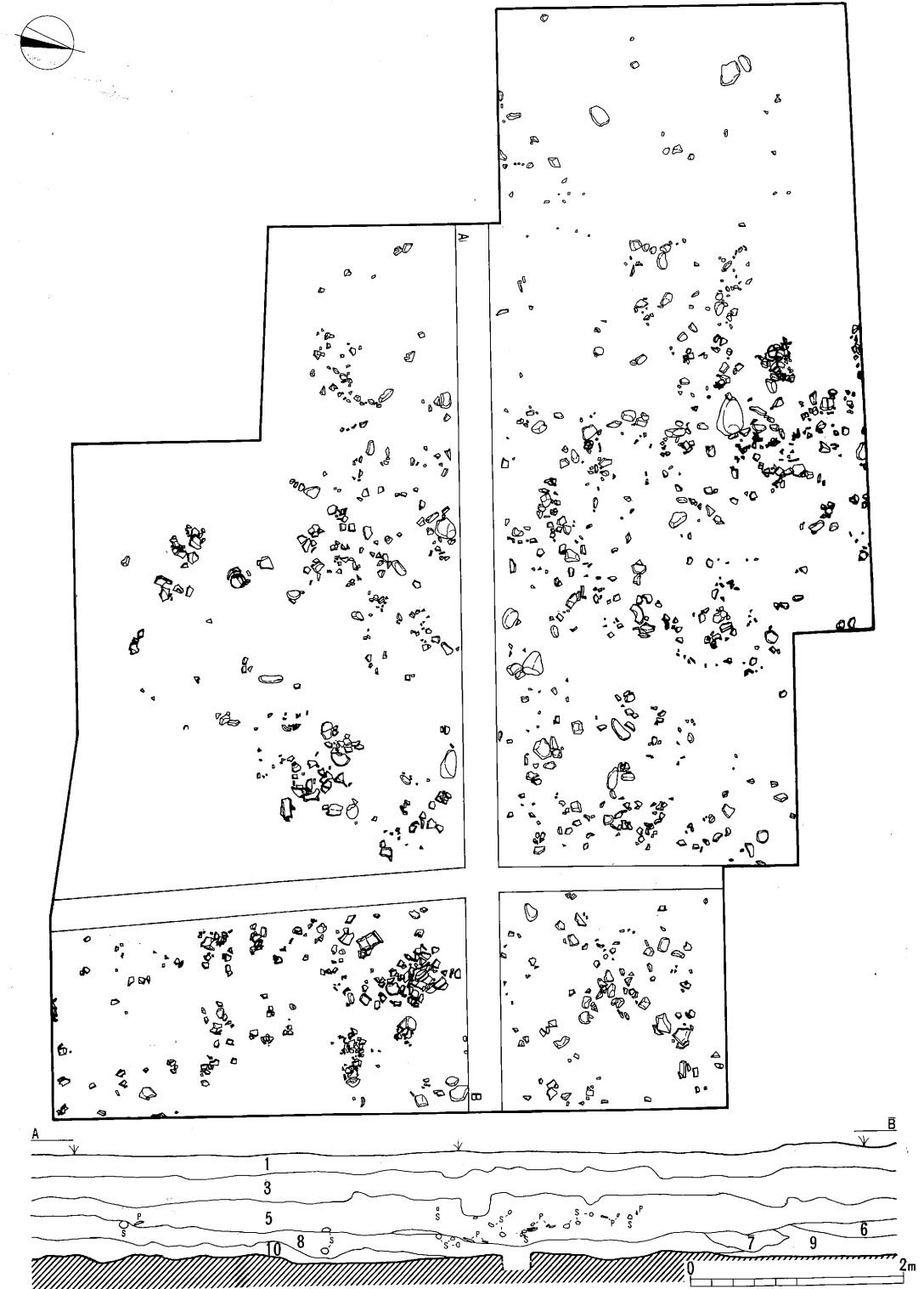
第57図 包含層出土遺物



土錘



磨製石斧



第58図 包含層遺物出土状態 (1 : 60)

# 報告書抄録

ふりがな	かいど・ごたっばら・えのきがいと・あらいきた いせき							
書名	海戸・後田原・榎垣外・新井北遺跡発掘調査報告書（概報）							
副書名	平成7年度榎垣外遺跡ほか発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	岡谷市教育委員会							
編集機関	長野県岡谷市教育委員会							
所在地	〒394 長野県岡谷市幸町8-1 TEL0266-23-4811							
発行年月日	西暦1996年3月21日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かいど 海戸	ながのけんおかやし 長野県岡谷市 てんりゅうちょう 天竜町	20204	75	36度 3分 20秒	138度 3分 18秒	19950531～ 19950612	74.1	住宅建設
ごたっばら 後田原	おかやしかわざし 岡谷市川岸 あらくらなつあけ 新倉夏明	20204	14	36度 1分 45秒	138度 1分 23秒	19950707～ 19950811	63.9	住宅建設
えのきがいと 榎垣外	おかやしおさち 岡谷市長地 ひがしぼり 東堀	20204	136	36度 4分 39秒	138度 3分 57秒	19951013～ 19951121	317.3	住宅建設
あらいきた 新井北	おかやしみなと 岡谷市湊 おさか 小坂	20204	64	36度 1分 34秒	138度 4分 34秒	19951221～ 19951228	22.0	住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
海戸	集落	縄文・弥生・平安	竪穴住居4棟	縄文土器5				
後田原	集落	弥生・平安	竪穴住居2棟	弥生土器6				
榎垣外	官衙	平安	掘立柱建物跡3棟	土師器片				
新井北	集落	平安	竪穴住居1棟	土師器片・須恵器片				